

予算特別委員会

「区民の生命・財産・福祉を守る！」

1 目黒区民の「生命・財産を守るための」火災対策を強化せよ。

首都直下地震による目黒区内の火災被害想定数 14 件（焼失棟数4000以上）を、仮に1件の火災を防げれば約300棟が燃えずに済む事になるが！

区の答え 日常の訓練や区報、ウェブサイト・SNS を活用して丁寧に周知する。消防団に必要な支援・助成金拡充を行う。関係機関とも連携を図りながら取り組む。



2 災害時における「自助」について

では、以前より指摘してきた。課題点（乳幼児・妊産婦、持病や障害・介護、ペットのストレス解消等）の解決に目黒区全庁的な連携で組織横断的に取り組め

区の答え 「防災行動マニュアル」と「防災カタログ」の目黒区全戸配布を行う。区全庁的な連携を組織横断的に取り組む。



3 「集中豪雨」等への区有施設全般の防水対策を再確認して徹底せよ。

区の答え 今後も区有施設の「防水改修を不断に実施」していく。施設の調査・確認し設備機器の配置見直しも含めて対策を検討する。



（トイレの環境改善へ）

4 「女性のトイレ行列問題」の解消に努め。

公共施設や駅のトイレは「女性便器数」を男性便器より多く確保せよ。

区の答え 区職員の声も聴いている。特に建物一階のトイレは優先度が高い。現在は物理的制約があるが、適切な誘導や時間利用の呼びかけなど出来る事を協議検討していく。



（心肺蘇生と AED 電気ショックなど）

5 「介護人材確保と定着」や「介護職員の負担軽減・職場環境の改善、推進せよ」15 年後には、介護職員が最大57万人の不足が見込まれる。介護分野のデジタル化（ICT や AI、ロボット）を更に進めよ。

区の答え 事務負担軽減に AI を活用する。施設利用者の介護の質の向上を図る。Wi-Fi 環境を整備し、見守りセンサーを活用、紙をデータ化へ、ケアプランデータ連携システムを約80事業所へ導入するなど進めていく。

6 道路陥没の原因は 8 割が下水道管の破損によるものである。道路のインフラの安全・安心を早急に進めよ。

区の答え より一層効率的に維持更新を推進していく。埋設物管理者と協議し早期の解消に努める。区民が生活に欠かす事のできない道路インフラを確保する。

7 電動アシスト自転車や電動キックボード等による「スピード走行」による不安声が多くある交通安全策を更に進めよ。

区の答え スピードを出す・マナーの悪さによる交通違反や事故の発生が問題である。警察や各種関係機関とも連携を図り、交通事故の防止と交通ルールの周知に取り組む。

8 動物愛護の推進を！（ペット犬猫の生涯を通じた支援等）

区の答え 支援体制整備事業」を活用する。相談・支援と譲渡を行うボランティアに助成を行う。問題を解決する仕組みの構築をしている。動物愛護施策を進める。

9 東京都道補助第26号線の整備（郵便局前～五本木）における安全対策を確保せよ。

区の答え 横断歩道と信号機を設置する。区と東京都、警察・東急バスと協議し情報交換しながら「歩行者の安全対策」と交通の変化に対応した安全対策に取り組む。

10 駅の周辺では、「駐輪対策」や「路上での飲酒」「立て看板」「路上喫煙」「ポイ捨て」「外国人の方の利用拡大」など

新しい課題に対して継続的な区民との情報交換が必要である。

区の答え 来街者の増加、歩行者の増加が今後さらに予想される。新しい課題点にも皆様の声を丁寧に伺い、関係所管と連携して適切に対応していく。

11 学芸大学商店街は、非常に人通りが多い。通行する方々の安全性や街の景観、災害時に備える防災の観点からも商店街の「無電柱化」を進めよ。

区の答え 来年度、令和10年度の計画改定に向けた基礎調査を実施する。学芸大学商店街の路線についても調査結果を踏まえて整備計画路線の再評価等を検討する。